

増床に向けて

職員の質向上をめざす

副所長 伊東 栄子

3回目の増床計画が着々と進み、予定では2011年12月に建物の受け渡しがあります。建物に関して言えば、リビングの広さ、居室の内部配置、照明、洋室か和室か等々、過去の経験を活かすことが出来ます。又聖隷三方原病院の建築関係職員の豊富な知識も加わり、よりよい器が出来ると思っています。

そこで、改めて器の身である職員の質(教育)について考えます。聖隷おおぞら療育センターの運営方針は「施設利用者に対し、障害に即した医療を提供するとともに、個の尊厳を護り、質の高い生活を提供します」であり、そのためには職員の質が問われてきます。職員の質は利用者の生活の質に直結します。看護職員と生活支援員は、非常勤を含め現在125人ですが、今後180人を超える事を予想すると、単に55人増える単純計算にはなりません。全体数が多くなればなるほど、運営方針を現場の中で共有していくことが難しくなります。現在の職員125人に対しおおぞらの中で、利用者の生

活の質に不可欠な「日常活動」「利用者理解」についての考えに課題です。現場の介護看護実践による利用者のエピソードの数々が、利用者理解に繋がり、利用者本人にとって価値ある日常活動に活かされます。利用者にとって、「価値がある」と自体が個々により違い、価値を理解し、判断することとは難しいと考えます。つまり、日常活動で知ることが出来た表出に意味があるのかを見出せることだと思っています。

まず私たちは、現場での利用者の表出を、エピソードとして受け取る感性と、表出をありのまま書くことが出来る観察力と描写力を鍛え、利用者理解の情報源になるようにしていかなければなりません。

毎月第2木曜日に療育研究会を開催しています。「利用者理解と日常活動」が主のテーマであり、今までも多くの職員が発表してきています。現場で実践することが一番だと思いますが、実践してきた内容をまとめ発表することも必要です。もちろん聞くことも、自己研鑽になります。価値ある日常活動が出来するため、職員の利用者に対する姿勢を、再度見直し考えていきたいと思います。

新年度を迎えて

事務長 藤田 敦

平素は、聖隷おおぞら療育センターをご利用いただきありがとうございます。

今年度は、昨年度から行っている新棟の建築が終わり、新棟が完成いたします。これにより、60床増床し、聖隷おおぞら療育センター全体では170床体制になります。人員・設備を順次整え、新たな利用者をお迎えする予定です。

重症心身障害児施設として整備を進めている中、2010年12月に障害者自立支援法の一部改定が国会で可決されました。この改定では、当センターのような児童福祉施設のあり方が、変わる方向性が示されています。法律上では、「重症心身障害」という概念がなくなる恐れもあります。しかし、当センターでは法律上の概念の有無にかかわらず、「必要な方に必要なサービス」を提供してまいります。

また、法改定に伴い、当センターの対応範囲が、ALS患者や筋ジストロフィー患者にも広がる事が予想されます。どのような対応となるかは今後の検討となりますが、現在の利用者の皆さんのサービスの質を落とすことなく、対応していく所存です。

今年度も、引き続きお願いいたします。

あさひの

日常活動紹介

幸田 沙織

あさひは、在宅で生活する重症心身障害に日中活動の場を提供する生活介護事業所です。あさひに通う利用者41名の障害像の幅は広く、約半数の利用者が横地分類のA1に入り、あと半数の利用者はA2、A3、A3-B、A4、B1、B4、C1、C2、C4、D1、D2、D3-Bに入ります。

あさひでは、利用者の障害像や医療的ケアなどを考慮したグループ体制をとっています。

6つのグループがあり、1グループ5〜8名の利用者が構成されています。利用者はそれぞれのグループで日課を過ごし、日中活動もそのグループ毎に行っています。活動内容や提供の仕

「横地分類 (改訂大島分類)」

「移動機能」、「知能」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C、B2、D2-U、B5-B、C4-D

<知能レベル>										
E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可				
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可				
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可				
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可				
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可				
<特記事項>										
C:有意な眼瞼運動なし										
B:盲										
D:難聴										
U:両上肢機能全廃										
<移動機能レベル>										
戸外歩行可			室内歩行可							
室内移動可			座位保持可							
			寝返り可							
			寝返り不可							



方は各グループで利用者個々に合わせた工夫がみられます。また、同じグループ内でも利用者の楽しみとされていること、身体の動きや気持ちの表れ方はそれぞれ異なるため、個別の活動を重視しながら、利用者が楽しい心